

事例の概要

この事例の登場人物、施設名等の名称はすべて仮称です。

本人氏名 猪苗代 太郎 さん

記入者 相談支援センターひまわり 相談支援専門員 六本木はやと さん

事例タイトル	父親と弟との暮らしが困難になり、グループホームと就労継続支援 B 型を利用しながら地域で生活することを希望している事例
相談経過の要約	<p>太郎さんは、A市で 2 人兄弟の長男として出生。初語や歩行が少し遅かったが、3 歳児健診など法定健診では特に保健師の指摘事項は無かった。小学校の 1～2 年生の時は普通学級に通っていたが、授業中落ち着きが無く、席を立てて教室内を歩き回り、突然怒りだし友達に手をあげて殴ってしまうことがあった。</p> <p>小学校 3 年生からは、A 市教育委員会が実施する就学指導審議会を経て自閉症・情緒障がい児特別支援学級に移った。小学校 6 年生の秋に、他の生徒との学力の差、学習環境に馴染めないこと等から、担任からは、中学は特別支援学校への進学を勧められた。その際、児童相談所定期相談会の判定を受け、診断名は「自閉症・軽度の知的障害」であった。</p> <p>中学は A 市内にある知的障がい特別支援学校に進学。中学校での生活は、太鼓部に所属し部活動では楽しく過ごしていた。太鼓部の顧問は、太郎さんのできるところは積極的にほめて、苦手なところは根気よく教えてくれた。また昆虫も大好きで、図鑑を見たりしている時は周りの声が聞こえないほど集中していた。同じクラスに昆虫好きの友達があった。父親が大工だったこともあり、太郎さんも木工に興味をもって犬小屋をつくった。</p> <p>太郎さんが中学校 2 年生の秋に両親が離婚。母親が統合失調症で自分のことでせいいっぱいで家族の面倒をみられなくなり家を飛び出してしまった。以後、父親と弟の 3 人暮らしとなった。その後、太郎さんは母親と 1 年に 1～2 回は会っている。離婚後、父親は家のことを何とかこなしていたが、徐々に家の中が乱雑になり、太郎さんも学校を休みがちになった。</p> <p>太郎さんは、特別支援学校の高等部を卒業し、製造部品を作る工場に就職。面倒見の良い上司がいて太郎さんも素直に対応した。上司がわかるまで丁寧に教えてくれて、ときに叱咤激励してくれたことで、安心して働いていた。しかし、1 年後に上司が変わり、その上司が他の職員の対応に追われて、太郎さんにあまり気を配らなくなった。それから半年後に、太郎さんは「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」などの不安を訴え、工場に通えなくなり、そのまま退職してしまった。それ以降「誰とも会いたくない」と話して、求職活動もなかなかできず自宅でのひきこもり状態の生活になっていた。</p> <p>太郎さんが退職して半年後、大工をしていた父親が通勤途中に交通事故にあい大けがをした。父親も右半身に麻痺が残り、仕事ができなくなった。最初のころは貯蓄で何とか生活していたが、すぐに生活保護となった。それまで父親が家事などを行っていたので、さらに乱雑な状態となり、食事も偏りが見られた。</p> <p>父親から「太郎の面倒をみていくことができない。何とか施設に入れてもらえないか」と市役所に相談があり、太郎さんも「お父さんと離れて、自分で生活できるようになりたい」と希望した。太郎さんは、相談支援センターひまわりで相談を始めて、見学等も行方中「相</p>

	<p>談しながらやっていきたい」「今は朝も起きられない」「掃除や洗濯、調理もできない」。でも、「いずれ自分のことは自分でできるようになりたい」ので「一人暮らしに向けた準備をしたい」「すぐに働く自信はないのでそのために力をつけたい」とグループホームを利用しながら、就労継続支援 B 型事業所に通所することを希望した</p>
年齢・性別・家族構成・家族状況・現在の居住歴	<p>年齢 22 歳 性別(男性) A市で生まれ。</p> <p>家族構成</p> <p>父:もともとは大工。以前はとても面倒見が良かった。無職 交通事故で右半身に麻痺が残る。何とか自分のことはこなせるが、子どもたちの世話をすることができなくなっていた。太郎さんの施設入所を考えていたが、太郎さんの「自立したい」という気持ちを聞いて、太郎さんには福祉サービスを利用して自立してほしいと思っている。</p> <p>母:A市から少し離れた B市に居住。生活保護を受給して一人暮らし。統合失調症の治療中で、太郎さんとの同居は難しい。年に 1~2 回太郎さんと会っている。</p> <p>弟:5 歳下。高校 3 年生。高校卒業後は就職する予定だが、兄の面倒までは見られないとのこと。</p>
手帳・区分	<p>療育手帳 障害程度は軽度 B 判定</p> <p>障害支援区分 非該当</p>
生活歴及び病歴	<p>【生活歴】</p> <p>A市で生まれ育つ。初語や歩行は少し遅かったが、特に保健師からの指摘事項はなかった。小学校 3 年生から自閉症・情緒障がい児特別支援学級に通学、中高は知的障がい特別支援学校に通学。好きなこと(木工や昆虫図鑑を見ること)は集中して取り組むことができるが、興味が無いと席に座っていることができない。また中学・高校は太鼓部に所属し、地域の演奏会などに参加。友達も数人いたが、自分から積極的に作るタイプではなかった。どちらかという受け身的な性格であり、話かけられるのを待つ方だった。困りごとがあっても相談できない。面倒見の良い人がいると素直になって長続きする。</p> <p>仕事はしたいと思っていたが、またうまくいかないのではないかとあって、求職活動はできずにいた。</p> <p>【病歴】</p> <p>中学校進学時に、児童相談所で判定を受け療育手帳を取得。仕事を辞めた後、自宅で引きこもった生活をしていた。生活保護の担当 CW の勧めもあり、精神科病院に受診。診断名は自閉症・知的障害。眠剤と安定剤を 1 日 1 回処方されて飲み始めた。受診してからは、夜少し眠れるようになったと話す。</p>
経済状況	<p>障害基礎年金申請中 補足給付:家賃 10,000 円(申請中)</p> <p>生活保護受給。</p>
相談に至る経緯	<p>父親から太郎の生活の面倒が見られないので、施設に入所させたいと市役所に相談。</p>
望んでいる暮らし	<p>太郎さんの希望は、「父親には世話になったので迷惑をかけたくない」「自分のことは自分でできるようになりたい」「困りごと相談したい」「将来は一人で暮らしたい」と思っているが、「今は朝もなかなか起きられない」「掃除や洗濯、調理もできない」ことに困っている。そのため、「3 年後ぐらいにはまた働きたい」「今は働くことの自信はないので力をつけ</p>

	<p>たい」「1人でコツコツと集中できる作業が好き」「働くときには優しい上司がいるところが良い」と話している。友達がうまくつけれないことを気にしていて「一緒に遊ぶ友達が欲しい」「昆虫の話ができる友達ができたら最高」と言っている。</p> <p>自分で自立した生活というイメージがまだ持っていないが、周りの人の協力が得られれば、十分地域で生活できると、生活保護の担当者は考えている。</p> <p>太郎さんは、「3年後には普通に仕事をして立派な男になりたい」と言っている。</p>
本人の状況と最近の様子	<p>太郎さんは、こちらから話かけるとボソボソと返答するが、話をするのは好きな様子。太郎さんからの質問はほとんどない。太郎さんの見た目は年齢相応の好青年である。ただ生活に困窮しているため、服装には少し汚れが目立っていた。相手の話を「はい、はい」と返事をするので、分かっているように見えるが、なかなか理解はできない様子。</p>
その他	<p>父親の右半身に麻痺が残り、これ以上の回復は望めない状態。</p> <p>弟は、普通高校に通い、健康状態の問題は特に無い。</p>

アセスメント表

記録:相談支援センターひまわり 相談支援専門員:六本木はやと

相談日時	令和〇年〇月〇日 13時～15時
氏名等	猪苗代 太郎氏、22歳 男性 知的障害(軽度) 障害支援区分 非該当 (月1回精神科受診)
望んでいる暮らし	<p>全体</p> <p>「父親には世話になったので迷惑をかけたくない」</p> <p>「困りごとは相談したい」</p> <p>「3年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」</p> <p>生活面</p> <p>「自分のことは自分でできるようになりたい」</p> <p>「将来は一人で暮らしたい」が「今は朝もなかなか起きられない」し「掃除や洗濯、調理もできない」</p> <p>「一緒に遊ぶ友達が欲しい、昆虫の話ができる友達ができたら最高」</p> <p>就労面</p> <p>「3年後ぐらいにはまた働きたい」</p> <p>「今は働くことの自信はないので力をつけたい」</p> <p>「1人でコツコツと集中できる作業が好き」</p> <p>「働くときには優しい上司がいるところが良い」</p>
心身の状況	<p>身長 175 cm 体重 80 キロ</p> <p>特に問題ない。太郎さんは最近肥満体形になってきているのを気にしている。</p>
精神面の状況	<p>突然怒り出したりすることは、以前に比べれば少なくなってきた。ただ自分のペースを乱されたり、急かされたりするとイライラする感じが見られる。</p> <p>見た目は大人しそう。高校時代の担任の先生は「普段は、穏やかに過ごしていた」「集中し</p>

別紙1

	ている時は、周りの声も耳に入らない」と言われていた。父親を尊敬していて世話になったと思っている。
生活の自立度	朝起きるのが苦手で生活リズムがなかなか安定していない。ADLは自立している。家事は手先が器用なので練習すればできるようになるのではないか。やり方や手順について確認する必要がある。
気持ちの自立度	家を離れた暮らしは全く経験したことがないので、始めは戸惑うこともあると思われる。また、自分の思い通りにならないと、他の方とトラブルになる可能性もあるので、イライラしそうなどときには早めに職員に伝えられるとよい。
服薬状況	夜、寝る前の処方のみ。自分で薬の管理ができるように練習している。
経済状況	【収入面】生活保護 【支出面】グループホームの費用 家賃 30,000 円(家賃補助 10,000 円) 食費 20,000 円 光熱水費 15,000 円 日用品費 3,000 円 生活費(おこづかい)20,000 円 金銭管理は、仕訳を手伝えればその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物(菓子・ケーキなど)買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。
趣味	昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。菓子・ケーキ等の買い物など
キーパーソン	父親。交通事故で右半身に麻痺があり自分のことで精一杯な様子。
家族	父方母方の祖父母について 父方の祖母は県外(遠方)にいるが、母方の祖父母は他界している。 両親と暮らしていたころは、年1回は家族で父方祖父母に会いに行っていた。
就労	手先が器用で興味をもつと集中できる。また、面倒見がいい人の話は素直に聞くことができる。しかし、以前の工場での仕事の経験から「人に会うのが怖い」「また注意されるのが心配」と不安感を述べる。「1人でコツコツと集中できる作業が好き。」「働くときには優しい上司がいるところが良い」「3年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」といずれしっかり働きたいという意欲はある。移動手段は、徒歩。公共交通機関は、これまでほとんど利用したことがないが、練習しだいでは利用できそうである。